

## 第5学年 図画工作

### 第5学年の学習到達目標

- (1) 造形的な能力を働かせるとともに、自らつくりだす喜びを味わい、様々な表し方や見方に触れ、創造的に表現する態度を身に付けていく。
- (2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさなどを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めるようにしていく。
- (3) 作品などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、感性を高めるとともに、それらを大切にするようにする。

### 第5学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	自信をもって	風神雷神の主題に興味をもち、日本の伝統的な美術の発想のよさや面白さを知る。 日本の伝統的な美術から発想して、表現しようとする意欲をもつ。	風神雷神を主題とする作品を比較して、気づいたことや日本の伝統的な美術のよさを確認し、表現へと発展させる構想を語り合う。 「ぞうけいずかん」や「いろとようぐのホームページ」などの見方や使い方を知る。
	ダイナミックスペース	身のまわりの場所や、材料を生かして使う。 つくりたいものに合わせて、つくり方を思いつき、接合や飾り方を工夫する。 つくったもので遊んだり、みんなと交流したりして楽しむ。	材料や場所の特徴から、つくりたいものをみんなて話し合い考える。 つくる手順や丈夫な組み立て方、装飾の仕方などについて計画を立て、安全に気をつけ、協力して製作する。 つくったもので遊んだり、交流したりする。
	トロリーかたまれ	粘土を生かした活動を楽しみ、材料の面白さに気づく。 材料の特徴を生かした表し方を工夫する。	固めるための布などの材料を集める。 粘土に色を混ぜたり、他の材料と組み合わせたりし、つくりたいものに合わせて、形や色を工夫する。
	ゲートをぬけてゴールイン	材料の特徴を確かめながら、ゲームの内容や使う材料を決める。 好きな形がつかれるように、丈夫な加工や接着、飾りなどを工夫する。 みんなで作った作品を組み合わせ、ゲームを楽しむ。	それぞれが好きな材料を選んで、ゲームになるようにデザインする。 材料を組み合わせ、試しながらデザインした形になるように工夫する。 できた作品をコースに並べて、みんなと一緒にゲームを楽しむ。
	こんなとき感じると思うこと	夢中になったときや心に残った場面などを思いだしながら、絵に表す楽しさを味わう。 思いがよく伝わるように、画面構成や色の組み合わせなどを工夫する。	生活を振り返って夢中になったときや、心に感じた場面を思い起こす。 スケッチしたりして思いが伝わるように、画面構成をし、絵の具や筆の使い方、描画材の組み合わせ方など、表現の方法を工夫する。
後期	動くよ動く絵が動く	絵が変わって動いていく面白さを味わう。 次々と落ちていって変化する絵を工夫しながらつくる。	アニメーションボックスの仕組みのおもしろさを知り、どんな場面にするか考える。 次々に変わる楽しく動く場面の流れを構成し、必要に応じて修正しながら作品を仕上げる。
	ほって刷って	表したいことが伝わるように、白と黒、色のバランスなど、版の特色を生かして表す。 彫刻刀の彫りの効果を考えて、使い分けたり、彫り分けたりする。	刷ってから、後で裏から色をつける木版の表し方を理解する。 自分の表したい場面を決め、配色などを考えて下絵をかく。
	きょうかしよびじゅつかん	世の中にある不思議な見え方をするものに気づき、その面白さを楽しむ。 自分で不思議な見え方をするものを探したり、考え出したりする。	教科書の作品などを見て、その面白さについて話し合う。 自分でも不思議な見え方をするものを探してきたり、つくったりして、友だちと見せ合って鑑賞し合う。

後期	曲げてねじって	粘土を加工していく操作から、思いついた形を作品にする。 粘土の板づくりや、どべを使った接着方法などを工夫する。	粘土を板にして、自由に曲げたりねじったり、切り取ったりする。 できた形や空間から、つくりたいものを想像し、道具の使い方や手順を考えて作品をつくる。
	板を切り抜いて	一枚の板から、つくりたい輪投げができるような切り方を考える。 電動糸のこぎりの安全な扱いに慣れる。	一枚の板からできるパーツを生かして、輪投げができるジグソーパズルを考える。 下がきに従って、電動糸のこぎりで板を切り分け、切り抜いたパーツを着色してから、組み立てる。
	心広がる場面	心広がる場面がよく表れるように、構図や色の使い方を工夫する。 作品を見せ合いながら、想像力や表現力の豊かさやよさを認め合う。	物語を聞いてかきたいところを想像し、どの場面をかくのかを決める。 表したい内容に合わせて、用紙や材料、技法などを選び、絵の具の使い方を工夫しながら、彩色する。
	広がれアート!	店に合う看板になるよう、デザインや材料の選択を工夫する。 設置場所などを考え大きさや仕組み、色の塗り方などを決める。	どんな場所に、どんな看板を設置するかを考えながらデザインする。 店の商品や店構えにあった材料や絵の具を選び、計画的に製作する。

### 評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】 自分の思いをもち、造形的な能力を働かせるとともに、自らつくりだすことや美しさなどを感じ取ることなど造形表現活動を積極的に楽しみ、その喜びを味わおうとする。</p> <p>【発想や構想の能力】 見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、主題の表し方など自分らしい表現の構想をしたり、デザインの能力を働かせて、つくりたいものの意図や美しさを考えるなど豊かな構想をしたりする。</p> <p>【創造的な技法】 表したい意図や周りの様子に関連付けながら、創造的な技能を働かせたり、造形感覚を生かしたりして、表し方を工夫する。</p> <p>【鑑賞の能力】 造形作品などに親しみ、その美しさなどを感じたり、表し方のよさを感じ取ったり、味わったりする。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】 主に制作や構想・構成を練る段階での積極性、学習への取り組み状況、作品の提出状況などにより評価します。</p> <p>【発想や構想の能力】 主に制作前の構想を練る段階でのアイデア、制作途中、完成後の構想の生かされ方などにより評価します。</p> <p>【創造的な技法】 主に場面に応じた用具、材料の使い方が適切に行われているか、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品などにより多面的に評価します。</p> <p>【鑑賞の能力】 主に教科書などの作品や児童相互の作品鑑賞、鑑賞後の自分の作品への生かし方などにより評価します。</p>
--	--

### 特色ある学習方法

- (1) 制作などの実践的・体験的な学習活動の中で、5年生の発達段階に応じた用具・材料の扱い方を身に付けます。
- (2) 身近な生活の中の造形活動、表現活動に目を向け、楽しく新たに生活の中に取り入れられる創造活動へとつなげていきます。
- (3) 造形活動を「楽しむ」ことや、技能を身に付けながら、自分たちの生活に彩りを添える美的感覚を養います。

### 使用教材等

<p>教科書 「図画工作 5・6上」(日本文教出版)</p> <p>材料...粘土, ダンボール, くぎ, 板, ベニヤ板, 紙やすりなど</p> <p>用具...水彩絵の具, ペンチ, ラジオペンチ, カッターナイフ, はけ, ローラー, かなづち, のこぎり, 電動糸のこぎり, きり, 版画用具一式など</p>
--

### 留意事項

- (1) 5年生で「図画工作 5・6上」、6年生で「図画工作 5・6下」の教科書を学習します。
- (2) 制作などの実習を効果的に進めるために、学習環境を整えるなど事故の防止に十分留意しています。
- (3) 5年生の発達段階に必要な用具、材料を網羅するよう、段階的に年間カリキュラムを考え、必要に応じて、教材セットを使用し、学習に役立てています。
- (4) これからの生活に生かしていくことができるような「楽しむ」造形活動を多く取り入れていきます。